

# 小さな親切

## 作文コンクール

### 丸山エリさんが国見中1年が県知事賞を受賞

第36回大分県「小さな親切」作文コンクール中学生の部で、最優秀賞の県知事賞に丸山エリさん（国見中学校1年）の「あいさつの力」が選ばれました。また、山下穂乃香さん（国見中学校3年）の「私はまだあいさつ練習中」が、全日本「小さな親切」作文コンクールで入選しました。

なお、市内の入賞者は次のとおりです。

#### 入賞者

（敬称略）

#### 小学生の部

大分県教育委員長賞

未 仁美子

（安岐中央小5年）

大分県教育長賞

藤原 史実

（武蔵東小5年）

#### 中学生の部

大分県知事賞

丸山 エリ

（国見中1年）

大分県教育長賞

山下 穂乃香

（国見中3年）

大分県本部長賞

相部 花子

（武蔵中3年）

#### 「あいさつの力」

（原文のまま）



国見中学校1年

丸山 エリ

私はふだん普通に行っていることから、「小さな親切」を見つけました。それは、「あいさつ」です。私に通っている国見中学校には、「あいさつと校歌の声は日本一」という大きな目標があります。私は入学して間もないころは、「なんであいさつをそんなにやらなきゃいけないの。」など思い、この目標に少し抵抗がありました。けれど、今は違います。あいさつが習慣づいて当たり前になっていきます。そんな毎日あいさつをする中、ある日心が温かくなる出来事がありました。それは、いつものように登下校で出会う人達にあいさつをしていたら、ある老人の方が「こんにちは。」のあとに下校中なので「おかげです。」と言ったことでした。その時の私は、頭の中はうれいという気持ちと、もう一つ何でだろうという思いもありました。私が思った何でだろうというの、なぜ全然知らない子どもに「おかげです。」と言ってくれたのだろうという疑問です。それから、その疑問についてしばらく考えて見ることにしました。考えている時も、「おかげです。」の他に「いつてらっしゃい。」とも言ってくれる老人の方もいました。そのような出来事の中、私が考えた結論は「家族」と

いうキーワードです。この町全体が大きな一つの「家族」なのです。たとえ、相手を知らなくても「家族」ですから、「おかげです。」や「いつてらっしゃい。」を言ってくれても、おかしくありません。私はそのように考えるようになってから変わりました。「ありがとうございます。」という思いを込めて頭を下げます。初めて言われた時はとまどいもありましたが、今は、「うれしいな。」と思う気持ちだけです。おじぎをすることも、また私の中では当たり前となりました。都会では、「あいさつ」という事もあまりないと思います。自然豊かな田舎だからこそある出来事です。小さな小さな出来事だけど、人々の心の中に宿るぬくもりは大きいのです。私も言われるたび心が「ポツ」とします。だからこういう気持ちを大切に、そのうえこの気持ちを多くの人に実感してほしいです。もし、日本全国にこういうとても小さな出来事だけ、広がって、心の優しい人が増えるといいなと思います。今、日本は「東日本大震災」という、とてもつらくて深刻な状況です。多くの人が亡くなり、仕事がダメになっている人も多くいます。特にまた一から信頼関係を築き上げるのが大変だと思えます。だから私は「信頼は心ぬくもる、あいさつから。」という言葉のように元気に頑張ってほしいです。やがて日本は大きな「家族」となり、平和な国になると思います。最後に「たかが、あいさつ」という考え方はもうやめてください。「あいさつ。」にも大きな力があります。だから私は「小さな親切。」には「大きな力。」が秘められていると思います。

## 福祉のために

2月3日（金）、「小さな親切」運動国東市支部（都留俊一郎支部長）が特別養護老人ホームくにさきの郷に車いすを贈りました。また、養護老人ホーム松寿園には歩行器を贈りました。

これは「小さな親切」運動本部が全国へ寄贈しているもので、今年は市内2施設に贈られました。贈呈式では都留支部長が「皆さんの活動に役立ててください」と入所者の代表に贈りました。

